



事件概要

- 2010年3月頃から岡崎市中心図書館の蔵書検索システムでアクセス障害が発生する
- サーバーのログから同市に住む男性が動かしていたプログラムが原因として
5月25日、当男性を偽計業務妨害容疑で逮捕した事件
- サーバーに対して意図的に大量のアクセスを行い、サーバーの動作を妨害する攻撃は
Dos攻撃(複数のPCで分散する場合はDDos攻撃)と呼ばれる
- 当時件以後ではあるがオンラインゲームに対してDDos攻撃を行い
書類送検された事例もある。



果たしてこれは攻撃なのか

- 男性が作った蔵書検索システムへのクローラーは最高でも10分間に1600回程度のアクセス
 - 秒間2~3回でありこういったクローラーとしては一般的な試行回数
- 男性の釈放後に開発元システムは検索システムに少ないアクセスでも障害が発生してしまう恐れがあったとして開発元社長が謝罪した
- 男性は起訴猶予(罪の立証も可能だが程度が軽い、示談が成立してる等により不起訴とする処分)で釈放された
 - これはつまり男性が故意にサーバーへの攻撃したと検察が判断したということ



課題

- アクセス障害が発生した、という事実だけを基にしてその背後にある技術的な原因への検証が不足していたのではないか
- サービスによってはWeb,DB管理を外部に委託するということもよくあり、そういった外部機関との連携が取れていなかったのではないか
- 技術者側も公共資源を利用する際にはその利用が良識的な範囲であるかどうか、他の利用者の使用を阻害するものではないか、ということ意識しながら利用していく必要がある